

## 平成20年6月定例会市議会市政報告

平成20年第3回釧路市議会6月定例会の開会にあたり、2月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

報告の第一は、釧路市夜間急病センターのオープンについてであります。

釧路地域では、医師不足やそれに伴う診療科の集約など、地域医療を取り巻く環境が大きく変化しており、とりわけ夜間の救急医療体制におきましては、医師不足に伴う長時間勤務が医師の疲弊を招き、これまで夜間の救急医療を担ってまいりました釧路市医師会病院における救急医療体制の維持が困難な状況に陥ったところであります。

そのため、新たな救急医療体制の構築が喫緊の課題となっておりましたが、幸い常勤医師が確保され、また、釧路市医師会を中心に、市内の病・医院の医師の皆さんのご協力により、釧路地域の初期救急医療の拠点施設として、釧路市夜間急病センターをオープンし、4月1日から診療を開始いたしました。

同センターは、内科・小児科を診療科目といたしまして、軽症患者を対象にした初期治療を担い、診療開始以来2ヶ月が経過しておりますが、これまで大きなトラブルもなく順調に推移しております。

この2ヶ月間の利用状況であります。受診者数は2,280人で、1日平均37.4人の方が受診されており、診療科別では、内科が1,417人、62.1%、小児科は863人、37.9%となっております。

今後とも、釧路地域の初期救急医療の拠点施設として、信頼される病院づくりに努めてまいりたいと考えております。

報告の第二は、音別地区特別養護老人ホームの開設についてであります。

旧音別町時代からの懸案でありました音別地区の特別養護老人ホームにつきましては、社会福祉法人 釧路悠和会が昨年より2ヵ年継続事業で整備を進めておりましたが、北海道より指定介護老人福祉施設等の指定を受け、去る6月1日、特別養護老人ホーム「えぞりんどうの里」として、介護サービスを開始いたしました。

この「えぞりんどうの里」の開設によりまして、第3期介護保険事業計画で定めた特別養護老人ホームの整備目標570床を達成するとともに、音別地区で未整備でありました50床が実現されたほか、在宅生活を支援するショートステイ4床が新たに確保されたことにより、住み慣れた地域での生活継続がさらに可能になるものと大いに期待しているところであります。

報告の第三は、第50回日本公園緑地大会についてであります。

去る6月5日、6日の両日、社団法人日本公園緑地協会が主催し、北海道と釧路市が協賛する「第50回日本公園緑地全国大会」が釧路市観光国際交流セン

ターを主会場に開催されたところであります。

この大会には、国、地方公共団体及び都市公園や緑化に携わる関係者約 900 名が参加し、公園緑地の整備、管理に関する最新情報を交換するとともに、本年 9 月にオープンする総合体育館などの代表的な施設の視察も行われ、成功裏に終了いたしました。

開催市といたしましては、商店街や市民ボランティアの皆様のご協力のもと、北大通の「花の道づくり事業」や「フラワーポート事業」等により、会場周辺を花と緑で飾るなど、市全体での歓迎ムードの盛り上げを図ったところであります。

また、第 50 回という記念すべき大会を釧路市で開催できたこと、県庁所在地以外での地方都市が主体となった開催は、初めてであったことから、全国に環境・交流都市「釧路」を大いにアピールできたものと思っております。

今後とも、地域経済への波及効果が大きく、釧路市を全国に P R できる大会等の誘致に努め、観光振興ビジョンの施策にある [ M I C E ] ( マイス ) の推進を図ってまいりたいと考えております。

報告の第四は、千代ノ浦マリパークのオープンについてであります。

千代ノ浦マリパークは、海と漁業とのふれあいをテーマに、平成 8 年度から建設を進めておりましたが、去る 6 月 7 日に全面オープンし、完成記念式を行ったところであります。

完成記念式では、テープカット、通水式に続き、園児とお母さんによるお遊戯の披露や、植栽、稚魚の放流、餅まきなど、地域や関係団体の皆様と協働した催しを実施したほか、協賛事業として、地元の魚介を素材にした「時鮭汁」の振る舞いを行い、多くの皆様にご参加いただきました。

千代ノ浦マリパークには、バーベキューコーナーとしての機能を持った休憩棟や、海から直接ポンプアップした海水が滝や水路に流れる親水広場をはじめ、遊具広場、多目的広場、釣り護岸も整備されており、レクリエーションやイベントの場として、市民の皆様幅広くご利用いただける施設となっております。

今後とも、バーベキューコーナーの利用やウォーキングコース、釣り場としての利用に合わせ、写生会や遠足などの教育的利用や、大会開催などの団体利用に向け、P R に努めてまいりたいと考えております。

報告の第五は、放課後チャレンジ教室の開設についてであります。

安全で安心な子どもの居場所づくりとして、余裕教室を利用した放課後活動である「放課後子どもプラン」につきましましては、5 月 7 日から、モデル校の興津小学校におきまして、「放課後チャレンジ教室」という名称でスタートしたところであります。

スタッフにつきましては、コーディネーター 1 名、安全管理員 2 名、チャレンジ教室のリーダー役を勤める学習アドバイザー 1 名の固定スタッフ 4 名のほか、公募のボランティアや教育大生が加わり運営しております。

内容につきましては、コミュニケーションスキル、身体運動系、娯楽系、体験活動系、情操系、学習系の 6 つプログラムがあり、登録児童数は 5 月末現在で 65 名となり、1 年生から 6 年生までの異学年交流が活発に行われているところであります。

今後は、ボランティアの得意分野によるメニューづくりなど、多様な内容にしていくとともに、スタッフの資質向上、学校との連携などについて、運営委員会を中心として改善に努め、より良い「放課後チャレンジ教室」にしていきたいと考えております。

報告の第六は、平成 19 年度各会計決算状況についてであります。

はじめに、一般会計につきましては、平成 19 年度の決算に当たり、減債基金からの繰入れ 2 億 6 千万円を取りやめるなどの結果、歳入総額 965 億 2 千万円、歳出総額 963 億 7 千万円となり、形式収支は約 1 億 5 千万円の黒字となる見込みであります。

その主な要因は、歳入で、阿寒中学校改築事業など約 9 億 7 千万円が予算繰越しとなったほか、各種事業の執行に伴い、国及び道支出金や諸収入など合わせて約 31 億 1 千万円の歳入不足となっておりますが、歳出におきましては約 10 億円の繰越明許費のほか、貸付金の減並びに工事契約差金や経費の節減などにより、合わせて約 32 億 3 千万円の執行残となったものであります。

決算剰余金の使途につきましては、繰越明許費に充当する一般財源約 2 千 8 百万円のほか、5 月臨時会及び今議会の補正財源として合わせて約 2 千 3 百万円を計上いたしております。

特別会計につきましては、国民健康保険会計で、保険料が予算を下回ったことや療養給付費国庫負担金の減額などに伴い、支払準備基金からの繰入れ約 3 億 4 千万円の増額により収支を整えております。

老人保健会計では、国及び道負担金等の一部が翌年度交付となったことに伴いまして、約 3 億 1 千万円の赤字決算となりましたが、平成 20 年度予算からの繰上充用により対処したところであります。

介護保険会計の保険事業勘定では、保険給付費が予算を下回ったことや、国及び道負担金の超過受納などから、約 2 億円の剰余金が生じたところであり、返還金の補正財源約 1 億 3 千万円を含め、介護給付費準備基金に積立てをいたしました。

国民健康保険音別診療所会計ほか、他の特別会計につきましては、概ね収支均衡する見込みとなっております。

報告の第七は、建設事業等の発注状況についてであります。

平成 19 年度における建設事業契約額は、約 97 億円となりました。

このうち、地元企業への発注額は約 75 億 2 千万円、発注率は約 78%であります。

本年度の建設事業の発注予定額は約 77 億 9 千万円ありますが、5 月末現在の契約額の総額は約 25 億 5 千万円となっており、発注予定額に対する執行率は約 33%であります。

建設事業は、地域経済への波及効果が大きいことから、今後とも早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。